

令和7年度 安房特別支援学校「学校評価アンケート」分析及び考察

本報告では、「5：そう思う」「4：ほぼそう思う」を合わせた数値（児童・生徒は「○はい」の数値）を肯定的な評価として捉え、まとめました。昨年度の数値も示し、変容を比較できるようにしました。皆様からいただいた貴重な御意見をもとに、「笑顔いっぱい やさしさいっぱい 夢いっぱい」な安房特別支援学校を実現するために、具体的なP（計画）D（実行）C（評価）A（改善）につなげてまいります。

なお、保護者・教職員・学校運営協議会委員・児童生徒の評価一覧は、学校ホームページに掲載しておりますので御確認ください。



アンケート結果の詳細は、
学校ホームページで御確認ください。



1 保護者・教職員・学校運営協議会委員

(1) 項目別3者比較

[評価基準] 5：そう思う 4：ほぼそう思う 3：あまりそう思わない 2：思わない 1：どちらとも言えない
[評定基準] ◎：90%以上 ○：80～90% △：70～79% ▲：69%以下

() 昨年度の数値

	保護者 (79名)	教職員 (123名)	学校運営協議会委員 (6名)	平均値	児童生徒アンケートの所見及び備考
学校経営	98.3% (97.1%)	91.3% (88.7%)	100% (100%)	96.5%	「笑顔いっぱい やさしさいっぱい 夢いっぱい」の安房特→「はい」84.8%
	<p>保護者、教職員共に肯定的評価の割合が高くなり、3者すべてにおいて90%以上という結果になりました。特に、「笑顔いっぱい やさしさいっぱい 夢いっぱい」という本校の学校教育目標や学校経営構想についての質問では、3者の平均が99.7%と高い割合となり、その実現を目指した教育活動への理解や協力をいただけていると感じています。今後も子供たちの幸せや成長を第一に考えた教育を提供できるよう努めます。</p> <p>会計処理については、保護者、教職員共に肯定的評価が95%以上の割合であり、概ね適切な処理ができていますものと考えます。自由記述の中で、通学費の詳細や給食の欠食対応の方法についての御意見をいただきましたので、よりわかりやすいお知らせができるよう方法を検討していきます。</p> <p>教職員は、昨年度より「3校舎の連携に関わること」に課題がありましたが、2.7ポイント肯定的評価が増えました。今後も Teams や Zoom などのツールを用いて円滑なやりとりの工夫をすると共に、各校舎の役割分担や業務内容の精査を行い、連携に努めていきます。</p>				
教育課程・学習指導	98.3% (96.3%)	91.9% (95.1%)	100% (100%)	96.7%	「学校行事は楽しい」→「はい」86.9% 「国語/算数(数学)」→「はい」61.6%
	<p>行事等には、今年度も大きな事故なく安全に取り組むことができました。ご協力ありがとうございました。児童生徒の評価からも、運動会や学校祭、宿泊行事や校外学習など、楽しく充実した取組となっていることがうかがえます。「あわ祭り」では、昨年度同様PTAの販売活動に卒業生の進路先である事業所の販売があったり、食べ物を扱う店があったりして、子供たちの模擬店と共に充実した内容になりました。当日は、学校運営協議会委員の方々にも参観していただき、子供たちが生き生きと活動する様子も見ていただけました。また、「なみのこフェスタ」や「小波祭」についても、たくさんの保護者の方や関係機関の方々にご来校いただき、子供たちが頑張る様子を参観していただきました。</p> <p>学習指導については、3者の肯定的評価の平均が96.6%と高い結果でした。また、児童生徒の評価では、「国語/算数(数学)」に対する肯定的評価が約10ポイント増加する結果となりました。これは、昨年度のアンケート結果を受け、教職員が各教科の見方・考え方を深め、学びの充実を図るよう計画的に学習を展開した成果と考えます。</p> <p>自由記述では、個々の実態に応じた学習内容の設定や教材の工夫などへの要望がありました。今後も、児童生徒の実態把握に努めると共に、子供たちの学習意欲や主体的に学ぶ姿を引き出せるような工夫を重ね、教職員の授業力や専門性向上に努めます。</p>				

	保護者	教職員	学校運営協議会委員	平均値	児童生徒アンケートの所見及び備考
生徒指導・人権教育	96.2% (95.1)	94.7% (95.8%)	100% (100%)	97.0%	「先生が話しかける」→「はい」79.8% 「学校のきまりを守る」→「はい」80.8%
	<p>今年度も「子供たちや保護者からの相談への適切な対応」、「子供たちの障害特性や気持ちに寄り添った人権を尊重した指導支援」で、高い肯定的評価を維持しています。人権尊重や不適切な指導防止などの研修について継続的に取り組んでいることが教職員の意識向上につながっていると推察されます。また、児童生徒の評価からも教職員との良好な関係性がうかがえます。今後も日常的なコミュニケーションを大切に子供たち一人一人の気持ちを受け止め、丁寧な指導支援に努めます。</p> <p>「校則に関わること」の項目については、肯定的評価が94.2%あり、保護者の方にも学校のきまり、約束について周知されてきたものと推察されます。また、学校で決められていることだけでなく、子供たちの普段の生活態度からも、集団や社会でのきまりやマナーが守られているとの評価でもありと考えられます。また、児童生徒の回答では、校則に関する肯定的評価が80.8%と高く、きまりを守ろうとする意識の高さがうかがえます。校則は、集団生活を気持ちよく過ごすために必要な約束です。子供たち自身が「守ろう」と思える内容となるよう、年度ごとに見直しをしていきたいと考えます。なお、校則は学校ホームページに掲載しておりますので、御参照ください。</p>				
キャリア教育・進路	93.1% (88.8%)	94.7% (94.2%)	100% (100%)	95.9%	
	<p>キャリア教育については、3者とも90%を超える肯定的評価を維持しています。特に、保護者については、4.3ポイントの増加がありました。これは、働く喜びや達成感を得る学習の展開と共に、進路指導担当が中心となり、進路や福祉サービスをテーマにした学習会を開催したことで、保護者の知りたい情報を提供できた成果だと考えます。自由記述でも「校内での進路学習や施設見学、就労体験などを行うことで、子供が卒業後の進路について考えるきっかけとなり、家族でもよく話し合うようになった」とのご意見をいただきました。引き続き、関係機関と連携を図りながら、地域に根差した進路指導を丁寧に行っていきます。</p> <p>一方、教職員の自由記述には、教員が情報、状況を理解することや、年間を通して日々の学校生活の中で進路を意識した指導を行うことの必要性に言及する意見がありました。また、施設が少なく、卒業後の進路選択が制限されている実情を踏まえ、対外的な活動をしていく必要性を感じているとの声もありました。今後も、子供たちの将来を見据え、どのような力を身に付けていくのかを意識して、幼少期からの指導・支援に努めていきます。</p>				
健康・安全・防災	94.5% (91.8%)	98.4% (96.6%)	100% (91.7%)	97.6%	
	<p>3者すべてにおいて、肯定的評価が増加し、平均して97.6%という高い結果になりました。「校舎内外の設備等の安全管理」については、校舎内設備等の老朽化等に伴う修繕及び改修を適宜行いながら、毎月の安全点検や環境整備で安全な教育環境保持に努めています。</p> <p>「防災」については、校舎の立地による津波発生時の避難について心配の声がありました。本校では、昨年度夏のミニ集会で防災への意識が高まったことを踏まえ、今年度は各校舎で実態に沿った防災学習を計画し、授業を展開しました。非常変災時の避難場所の確認や避難の仕方、避難後の生活などについて体験を主とした学習を行ったことで、防災を我が事として捉えることができました。また、非常変災の発生を100%避けることはできませんので、もしもの時に自分の命を守るためにどのような行動をとればよいのか、体験を通して学ぶことができました。今後も、緊急時対応マニュアルの見直しを適宜行い、平常時の訓練に繰り返し取り組んでいきます。</p>				
地域連携・交流	90.7% (92.6%)	94.8% (96.7%)	100% (100%)	95.2%	
	<p>今年度もすべての項目で90%以上の肯定的評価でした。子供たちの健やかな成長のために、学校・家庭・地域が連携して、環境を整えていくことは不可欠であると考えます。学校運営協議会委員の方からも「地元の人は思った以上に生徒のことを理解しています。もっと積極的に利用ください」との言葉をいただき、心強い限りです。今後も、地域交流のあり方として、あわ祭り等の外部関係者の参加や地域の方々を交えた避難訓練を行う等、地域の一員として生活する中で必要な共同や体制づくりを検討していきます。</p> <p>「交流及び共同学習」については、今年度も学校間交流や居住地（園）交流などを、相手校（園）の協力を得て、細やかな打合せをしながら、計画的に実施することができました。引き続き、双方の子供たちにとって豊かな学びとなるような内容を実施できるよう連携を図っていきます。</p> <p>「学校ホームページ」については、今年度も本校の教育活動等を知るための情報提供の場となるよう、可能な範囲で取り組んでいるところです。個人情報等の兼ね合いや校舎規模、活動内容等、校舎ごとに事情が異なり、更新頻度に差があるのが現状です。学校ホームページに掲載する内容を精査しつつ、保護者や地域の方々にご覧いただき、本校を知っていただくものとなるよう、3校舎で調整し工夫を図っていきます。</p>				

	保護者	教職員	学校運営協議会委員	平均値	児童生徒アンケートの所見及び備考
保護者との連携	97.5% (93.9%)	96.7% (96.9%)		97.1%	
	<p>今年度も95%以上の肯定的評価が維持され、特に保護者については、3.6ポイント増加しました。「子供の様子が家庭に伝わっている」ことについては、昨年度と同等の評価で、連絡帳を中心に学校での様子がよく伝わっていると感じている方が多いという結果でした。今後も、家庭との情報共有や連携強化に努めます。</p> <p>「PTA活動」は、今年度も本部役員や理事の皆様を中心に、熱心に取り組んでいただきました。PTA活動に対する肯定的評価は昨年度より7.3ポイント増加し、保護者の皆様のPTA活動に対する関心の高さがうかがえます。3校舎の皆様が一堂に会するのは、距離的、時間的にも難しい状況もありますが、行事の開催時期や時刻を考慮して、参加しやすい活動にする工夫をしています。引き続き、保護者の皆様がより参加しやすくなるように、PTA理事会等でも話題に挙げ、学校も協力したいと考えます。</p>				
研修・修養		92.3% (93.8%)		92.3%	
	<p>数値は昨年度よりも若干の減少が見られますが肯定的評価は90%以上を維持し、今年度の研修の取組が適切であると評価する教職員が多数を占めました。今年度も、各学部・グループごとに学びたいテーマを設定し、より実践的な内容で研修を進めています。研修の取組が適切だったと評価する一方で、「研修の成果を授業実践に生かしている」という肯定的評価が昨年度より減少しているのは、自分の授業実践に真摯に向き合い、より厳しい目で評価した結果であると推察されます。今後も、子供たちが楽しく、主体的に学習に取り組める授業の実現を目指し、教職員の資質・能力や授業力の向上につながる研修・修養に努めます。</p>				
センター的機能		89.4% (93.4%)		89.4%	
	<p>特別支援学校のセンター的機能については、特別支援教育コーディネーターを中心に各市町教育委員会や関係機関との連携を図り、巡回相談や教育相談、就学に係る検査協力、出前授業など、多岐に渡る取組をし、校外関係機関と連携を図っているところです。しかし、教職員の入れ替わりや、対外的な取組が校内の教職員の目に触れる機会が少ないことで、センター的機能の具体的なイメージが湧かず、肯定的評価がわずかに減少したものと考えます。このことから、外向けの業務の多い支援部の取組が校内の教職員にも周知されるよう情報の発信が必要だと考えます。</p> <p>「総合的な機能を有する特別支援学校としての役割」を果たしていけるように、関係機関との連携強化を深めると共に、特別支援教育の専門性を地域に発信できるよう努めます。</p>				
不祥事防止・働き方改革		91.1% (88.6%)		91.1%	
	<p>「不祥事防止」に関する肯定的評価が増加し、90%以上になりました。全職員が不祥事を我が事と捉え、「不祥事は絶対に起こさない」意識を高くもっています。自由記述では、不祥事防止のためにできることとして、地道な研修の積み重ねによる意識化やお互いに思ったことを言い合える職場環境づくり等が挙げられています。また、今年度は教職員や児童生徒の意見を取り入れた「ハラスメント根絶宣言」を作成し、「不祥事を起こさない」だけでなく、「不祥事をさせない、見逃さない」学校づくりを目指しています。</p> <p>「働き方改革」の肯定的評価は昨年度より2.9ポイント増加し、自身のワークスケジュールを意識する教職員が増えてきたことがわかります。ほとんどの教職員は時間外勤務を月45時間以内に抑えられていますが、各々の抱える業務が異なるため、忙しい時期が一樣ではありません。そのため、時期によって業務に負担を感じている教職員が多いのも現状です。引き続き、教職員が子供たちと向き合い、充実した教育活動を行えるよう、業務の精査や行事等の精選、実施方法の工夫や見直し、ICTの利活用などを行い、業務改善を図れるよう努めます。また、教職員自身の時間の使い方を工夫することで有意義な業務時間の創出ができる部分もあると思われるので、教職員個々への働きかけも継続していきたいと考えます。</p>				

(2) 保護者の皆様からの回答について

令和7年度の学校評価アンケートにつきまして、79名の保護者の皆様から回答にご協力いただきました。回答者数が、昨年度から減少しているため、今回のアンケート結果報告がすべての皆様方からの評価と捉えることは難しいと考えておりますが、いただいた結果やご意見を、今後の学校経営や子供たちの指導支援に生かしていきます。

保護者の皆様方からの記述意見については、上記【項目別3者比較及び考察】に含めました。なお、ここでは取り上げきれなかったご意見に対しては、個人情報に十分に配慮した上で、全職員で共通理解を図り、より良い安房特別支援学校の経営や教育活動充実のための参考にさせていただきます。

1 児童・生徒（小学生・中学生・高校生）

(1) 学部別3者比較（学部グループのアンケート集計及び評価・評定）

[評価基準] 1つの質問に対して「○はい」「×いいえ」「△わからない」の3段階評価

[評定基準] ◎：90%以上 ○：80～90% △：70～79% ▲：69%以下

※結果報告は、「○はい」を肯定的評価として計上しています。

() 肯定的評価の割合

項目	質問内容	評価（学部G%）			評定	
		小学生	中学生	高校生	肯定的評価 %	評定
学校経営	① 安房特別支援学校は「笑顔いっぱい やさしさいっぱい 夢いっぱい」の学校ですか。	27 (84.4%)	14 (66.7%)	37 (80.4%)	84.8%	○
教育課程 学習指導	② 学校行事（運動会、学校祭、校外学習など）は、楽しいですか。	29 (90.6%)	17 (81.0%)	40 (87.0%)	86.9%	○
	③ 「国語/算数（数学）」は、好きですか。	21 (65.6%)	13 (61.9%)	27 (58.7%)	61.6%	▲
	④ 「体育（保健/体育）」は、好きですか。	28 (87.5%)	13 (61.9%)	31 (67.4%)	72.7%	△
	⑤ 「音楽」は、好きですか。	28 (87.5%)	17 (81.0%)	36 (78.3%)	81.8%	○
	中高⑥「作業学習」は、好きですか。	/	14 (66.7%)	35 (76.1%)	73.1%	△
	小⑥「生活単元学習」は、好きですか。	22 (68.8%)	12 (57.1%)	/	64.2%	▲
	中⑦	/	/	/	/	/
	小⑦「自立活動」は、好きですか。	27 (84.4%)	14 (66.7%)	33 (71.7%)	74.7%	△
中高⑧	/	/	33 (71.7%)	71.7%	△	
生徒指導 人権教育	高⑦「職業」「現場実習」は、好きですか。	/	/	33 (71.7%)	71.7%	△
	小⑨ 学校は好きですか。	27 (84.4%)	17 (81.0%)	30 (65.2%)	74.7%	△
	中高⑩	/	/	/	/	/
	小⑩ 先生は、あなたに話しかけたり、困ったときに話を聞いてくれたりしますか。	28 (87.5%)	13 (61.9%)	38 (82.6%)	79.8%	△
中高⑪	/	/	/	/	/	
小⑪ 「学校のきまり（児童生徒規定）」を守ろうと頑張っている中高⑫（努力して）いますか。	25 (78.1%)	16 (76.2%)	39 (84.8%)	80.8%	○	

《自由記述》

小⑧中高⑨ 他に好きな勉強があったら教えてください。

- ・タブレットやパソコンの授業（2）
- ・調理実習（2）
- ・制作活動
- ・ALT/英語（4）
- ・プール
- ・しいたけ班の活動
- ・ランニング
- ・柔道
- ・野球
- ・サッカー
- ・美術（4）
- ・技術

小⑫中高⑬ 学校生活について、先生に伝えたいことはありますか。

- ・楽しく過ごせています！
- ・毎日楽しいです。
- ・先生いつもありがとう。いっぱい話をする。
- ・いつもありがとうございます。学校楽しいです。
- ・生徒一人一人に合った指導をお願いしたい。この子はこれではできないと指導を諦めるのではなく、少しでも参加できるように手を貸していただきたいです。
- ・しいたけ班をずっとしたいです。学校のバスで校外学習に行きたいです。ハイエース好きです。
- ・先生方のおかげで教えていただいたこと、厳しいこと、助けていただいたことが沢山あってとても嬉しかったです。私はこれからも沢山勉強して、覚えて、頑張っていきますので、今年も来年もよろしくお願いします。
- ・いつも応援していただき、本当にありがとうございます。これからも私は学んだことを覚えて、頑張っていきます。これからもよろしくお願いします。
- ・先生方が沢山教えてくださったおかげで、本当に感謝しています。来年3年生になってからは、今まで学んだことを思い出しながら頑張っていきます。

(2) 昨年度との比較及び考察

児童生徒に向けたアンケートは、令和3年度から実施しています。昨年度は小学部・中学部・高等部・生活グループの4者を対象としていましたが、生活グループの母数が少ないことから、今年度は生活グループのお子さんを各学部に分け、小学生・中学生・高校生としました。

また、昨年度、アンケート内容を見直したことから、今年度は前年度との比較を行うために、昨年度と同様の質問項目でアンケートを実施しました。アンケートフォームでの回答を原則としており、お便りや連絡メール等で回答の依頼をし、回答数は、昨年度よりわずかに増加しました。児童生徒の回答については、保護者のご協力が不可欠です。今年度もご協力ありがとうございました。

しかし、回答者数は微増したものの、回答率は61.9%と決して高い数値ではありません。引き続き、児童生徒の回答しやすい実施方法や意図の伝わりやすい質問内容の検討など、改善と工夫を重ねていきます。

① 小学部

昨年度と比較し、回答率が約6ポイント増加しました。＜教育課程・学習指導＞に関わる質問では、肯定的評価（「はい（好き）」）が高かった学習は、「体育」と「音楽」で、87.5%でした。他、「自立活動」の肯定的評価も高い結果でした。また、「国語/算数」については、肯定的評価は65.6%ですが、昨年度よりも9%以上高くなっており、教科学習に対する意欲がうかがえます。

② 中学部

昨年度と比較し、回答率が約6ポイント減少しました。＜教育課程・学習指導＞に関わる質問では、最も高い肯定的評価を得た学習は「音楽」の81%でした。昨年度、最も肯定的評価が高かった「作業学習」が66.7%と約26%も低下していることから、勤労意欲の向上や将来の就労を見据えた活動内容の見直し等、授業改善の必要があると考えます。「国語/数学」については、61.9%の肯定的評価で、昨年度と同等の結果になり、授業水準や学習意欲等が維持できていると推察されます。

③ 高等部

昨年度と比較し、回答率が約10ポイント増加しました。＜教育課程・学習指導＞に関わる質問では、肯定的な評価の平均は70.7%で、最も高い評価であったのは「音楽」で、次いで「作業学習」「職業/現場実習」でした。ここから、卒業後の進路を見据えた学習に関心・意欲が高いことがわかります。「国語/数学」に関しては61.9%と高い数値ではありませんが、昨年度より約13%肯定的評価が増加しており、教科学習が充実していることが推察されます。そのほか、「⑨ほかに、好きな勉強があったら教えてください。（自由記述）」の回答は高校生が最も多く挙がっており、教育課程の中でそれぞれに好きな学習があることがうかがえます。

④ 全体をとおして

質問②「学校行事（運動会・あわ祭り・校外学習など）は、楽しいですか。」（教育課程・学習指導）

小学生	90.6%	中学生	81%	高校生	87%
-----	-------	-----	-----	-----	-----

児童生徒の回答結果から、各行事がやりがいのある楽しい、充実したものになっていることがうかがえます。コロナ禍の影響で中止・縮小せざるを得なかった学校行事の再開もあり、従来の行事の姿が戻ってきていることも大きいと推察されます。今後も、幼児児童生徒の一人一人が主役となって活躍し、行事が終わった後に達成感や満足感を味わえるよう、各校舎の特性や実態等を生かした内容の精選や工夫を図ります。

質問小⑨中高⑩「学校は、好きですか。」（教育課程・学習指導）

小学生	84.4%	中学生	81%	高校生	65.2%
-----	-------	-----	-----	-----	-------

質問小⑩中高⑪「先生は、あなたに話しかけたり、困ったときに話を聞いてくれたりしますか。」（生徒指導・人権教育）

小学生	87.5%	中学生	61.9%	高校生	82.6%
-----	-------	-----	-------	-----	-------

小中学生が「学校が好き」との肯定的評価が高かったことは大変うれしく思います。高校生については、卒業後の進路に向けて、楽しいことばかりでなく、厳しいこともやらねばならぬ状況に直面していることも評価に反映しているのではないかと考えます。

しかしながら、質問中高⑪で高校生は、先生は困ったときに話を聞いてくれると感じています。進路を含む学校生活での悩みや困りごとにも相談しながら、学校生活を送れているものと推察します。

一方で、中学生は、「先生は、あなたに話しかけたり、困ったときに話を聞いてくれたりする」の肯定的評価が小・高に比べて低い結果となりました。これは、思春期に入り、人との関わりについて距離を取ろうとしたり、自分の思いをうまく伝えられなかったりする成長の過程の現れであると考えます。学校は、このような児童生徒の心の成長に寄り添いながら、適切なコミュニケーションを図り、信頼関係を築いていくことに努めていきます。

質問小⑪中高⑫『学校のきまり』を守ろうと頑張って（努力して）いますか。（生徒指導・人権教育）

小学生	78.1%	中学生	78.2%	高校生	84.8%
-----	-------	-----	-------	-----	-------

学校のきまり（小学部のやくそく、生徒指導規定、生徒心得）は、学校ホームページでも公開されており、各校舎で児童生徒に示し、より良い学校生活づくりの一助となるべく活用をしています。およそ80%の児童生徒がそれぞれのきまりを知り、それらを守ろうと努めています。また、卒業後の社会生活を見据えた高校生できまりへの意識が高いことがわかります。

学校のきまりは、集団生活をより良いものとするために必要です。引き続き、校則が児童生徒にとって守る意味のある、分かりやすく実践的なものとなるよう、その内容を適宜見直ししながら、児童生徒に働きかけていきたいと考えます。